

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学ⅠA(骨関節)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部3年	学期	前期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	菊地 淳				
実務経験と その関連資格	1998年、関西大学法学部卒業、医療法人福島病院事務部入職。2001年～事務部主任として救急告示病院の運営に従事。2002年、大阪医療福祉専門学校理学療法士学科夜間部入学(1期生)。2006年、理学療法士国家資格取得、医療法人福島病院リハビリテーション部に転籍。2010年より事務部主任兼リハビリテーション部外来主任として運動器リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション等に従事。2007年より豊中渡辺病院(現・関西メディカル病院)スポーツ外来にて6年間臨床研修。同年よりよしだ整形外科スポーツ外来非常勤、緑かなざわ整形外科非常勤、一般社団法人アスリートケア会員として運動器理学療法、スポーツ理学療法に従事。2012年、大阪医療福祉専門学校入職(理学療法士学科専任教員、2022年～副学科長)。2019年、滋慶医療科学大学院大学医療安全管理学科修了。兵庫県高等学校野球連盟医務スタッフ。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手用理学療法士、2022年～兵庫県理学療法士会スポーツ活動支援部に運動器理学療法、スポーツ理学療法を中心に中堅理学療法士の育成に従事。執筆、学会発表、報道多数。				
《授業科目における学習内容》					
運動器リハビリテーションは、理学療法士にとって最も重要な領域の一つである。本講義では、運動機能障害の原因となる整形外科の考え方と整形外科疾患の基本知識を復習しながら、理解した内容はすぐに臨床で実践できるように臨床現場で働いている感覚で評価・治療を実践できることを到達目標とする。					
《成績評価の方法と基準》					
授業レポート(20%)、定期試験(80%)により総合評価を行う。 授業レポートは、授業を重ねるごとに教員と学生間で形成的に相互理解を図り、その上で課題を決定する。 定期試験前には、試験範囲の総合的確認と内容理解を確認し、OSCE、評価実習、臨床実習、国家試験そして臨床へと繋がる内容とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
①石川朗(編)．理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅰ 第2版、中山書店、2021 ②石川朗(編)．理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版、中山書店、2021 ③島田洋一ら(編)．整形外科術後理学療法プログラム 第3版、メジカルビュー社、2020					
《授業外における学習方法》					
①教科書の通読による自己学習(予習、復習) ②配布資料(補足プリント、試験対策レジュメ)に沿った自己学習 ③学生間での実技練習(評価実技、治療実技)					
《履修に当たっての留意点》					
①解剖学、生理学、運動学等の知識を基に理解が深まるので、大いに復習すること。 ②近い将来、臨床で出会う症例を想像しながら臨み、この授業で学ぶ知識、技術を自分のものとしていただきたい。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	整形外科理学療法・スポーツ理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 整形外科理学療法・スポーツ理学療法の実際			
第2回	授業を通じての到達目標	整形外科理学療法・スポーツ理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 整形外科理学療法・スポーツ理学療法の実際			
第3回	授業を通じての到達目標	組織修復について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	組織再生・修復(1)総論			
第4回	授業を通じての到達目標	炎症の5徴候について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	組織再生・修復(2)実技			
第5回	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(1)橈骨遠位端骨折			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折の評価と治療について経験的に理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(1) 橈骨遠位端骨折(実技)		
第 7 回	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(2) 上腕骨近位端骨折		
第 8 回	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折の評価と治療について経験的に理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(3) 上腕骨近位端骨折(実技)		
第 9 回	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(4) 脊椎圧迫骨折		
第 1 0 回	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折の評価と治療について経験的に理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(5) 脊椎圧迫骨折(実技)		
第 1 1 回	授業を通じての到達目標	下肢整形外科理学療法のリスク管理について理解する	レジュメ	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	下肢整形外科理学療法のリスク管理		
第 1 2 回	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(6) 大腿骨頸部骨折①		
第 1 3 回	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	骨折と脱臼(6) 大腿骨頸部骨折②		
第 1 4 回	授業を通じての到達目標	変形性関節症の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	変形性股・膝関節症①		
第 1 5 回	授業を通じての到達目標	変形性関節症の理学療法について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	変形性股・膝関節症②		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学ⅠA(骨関節)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部3年	学期	前期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	菊地 淳				
実務経験と その関連資格	1998年、関西大学法学部卒業、医療法人福島病院事務部入職。2001年～事務部主任として救急告示病院の運営に従事。2002年、大阪医療福祉専門学校理学療法士学科夜間部入学(1期生)。2006年、理学療法士国家資格取得、医療法人福島病院リハビリテーション部に転籍。2010年より事務部主任兼リハビリテーション部外来主任として運動器リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、脳血管リハビリテーション等に従事。2007年より豊中渡辺病院(現・関西メディカル病院)スポーツ外来にて6年間臨床研修。同年よりよしだ整形外科スポーツ外来非常勤、緑かなざわ整形外科非常勤、一般社団法人アスリートケア会員として運動器理学療法、スポーツ理学療法に従事。2012年、大阪医療福祉専門学校入職(理学療法士学科専任教員、2022年～副学科長)。2019年、滋慶医療科学大学院大学医療安全管理学科修了。兵庫県高等学校野球連盟医務スタッフ。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手用理学療法士、2022年～兵庫県理学療法士会スポーツ活動支援部にて運動器理学療法、スポーツ理学療法を中心に中堅理学療法士の育成に従事。執筆、学会発表、報道多数。				
《授業科目における学習内容》					
運動器リハビリテーションは、理学療法士にとって最も重要な領域の一つである。本講義では、運動機能障害の原因となる整形外科の考え方と整形外科疾患の基本知識を復習しながら、理解した内容はすぐに臨床で実践できるように臨床現場で働いている感覚で評価・治療を実践できることを到達目標とする。					
《成績評価の方法と基準》					
授業レポート(20%)、定期試験(80%)により総合評価を行う。 授業レポートは、授業を重ねるごとに教員と学生間で形式的に相互理解を図り、その上で課題を決定する。 定期試験前には、試験範囲の総合的確認と内容理解を確認し、OSCE、評価実習、臨床実習、国家試験そして臨床へと繋がる内容とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
①石川朗(編)。理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅰ 第2版、中山書店、2021 ②石川朗(編)。理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版、中山書店、2021 ③島田洋一ら(編)。整形外科術後理学療法プログラム 第3版、メジカルビュー社、2020					
《授業外における学習方法》					
①教科書の通読による自己学習(予習、復習) ②配布資料(補足プリント、試験対策レジュメ)に沿った自己学習 ③学生間での実技練習(評価実技、治療実技)					
《履修に当たっての留意点》					
①解剖学、生理学、運動学等の知識を基に理解が深まるので、大いに復習すること。 ②近い将来、臨床で出会う症例を想像しながら臨み、この授業で学ぶ知識、技術を自分のものとしていただきたい。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第 1 6 回	授業を通じての到達目標	関節リウマチについて理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	関節リウマチ(総論)			
第 1 7 回	授業を通じての到達目標	関節リウマチについて理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	関節リウマチの評価と治療①			
第 1 8 回	授業を通じての到達目標	関節リウマチについて理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	関節リウマチの評価と治療②			
第 1 9 回	授業を通じての到達目標	関節リウマチについて理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	関節リウマチの評価と治療③			
第 2 0 回	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷を理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読	
	各コマにおける授業予定	末梢神経損傷(総論)			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 2 1 回	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷を理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の評価と治療①		
第 2 2 回	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷を理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の評価と治療②		
第 2 3 回	授業を通じての到達目標	脊椎疾患(頸椎疾患)について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	脊椎疾患(頸椎疾患)の評価と治療①		
第 2 4 回	授業を通じての到達目標	脊椎疾患(頸椎疾患)について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	脊椎疾患(頸椎疾患)の評価と治療②		
第 2 5 回	授業を通じての到達目標	脊椎疾患(腰椎疾患)について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	脊椎疾患(腰椎疾患)の評価と治療①		
第 2 6 回	授業を通じての到達目標	脊椎疾患(腰椎疾患)について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	脊椎疾患(腰椎疾患)の評価と治療②		
第 2 7 回	授業を通じての到達目標	肩関節周囲炎について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	肩関節周囲炎の評価と治療①		
第 2 8 回	授業を通じての到達目標	肩関節周囲炎について理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	肩関節周囲炎の評価と治療②		
第 2 9 回	授業を通じての到達目標	肩の外傷を理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	肩の外傷(総論)		
第 3 0 回	授業を通じての到達目標	肩の外傷を理解する	教科書(①～③)	教科書(①～③)の通読
	各コマにおける授業予定	肩の外傷の評価と治療		